

校内研究 職員アンケート考察

1. 研究主題・副主題について

確かな学力を身につけること、意欲的に学ぶ子供の育成をはかること、国語科「書くこと」を軸に据えた継続研究をしたことは、より深めることができ校内研究として適していた。

2. 研究目標・研究仮説について

国語科「書くこと」に焦点を当て、職員で共通理解を図り進んでいったこと、発達段階に応じた指導の手立てを取ったこと、授業実践に生かすことができたことなどにより、児童の学ぶ意欲を向上させることができ、目標・仮説とも適切だった。

3. 研究内容・研究方法について

①「書く力」を育てるための国語科の授業の改善と実践

各ブロックともに「書く力」を育てるために昨年度までの実践をもとに工夫・改善することができた。指導方法や授業の組み立て方などの授業づくりや日常の取り組みが、効果的であった。また、授業研究に取り組むことで、他の教師の指導方法を学べる機会となり、教師の力量の向上にもなったようである。

「書くこと」は、多くの学習の基盤となるので、何らかの方法で継続していくことに意味があるのではないかと考えた。そのためにも、開発したワークシートや指導案等を残しておく方法を考えて、いつでも使えるようにしておくことが大切だと感じた。

②研究をささえる日常の取組（継続的なスキルの育成の工夫）

各学年・ブロックで児童の実態に合った取組がなされ、学習を支える力の育成となった。マンネリ化しないように工夫して、校内研に関わらず、続けていくのがよいのではないかと考えた。

③学習習慣・生活改善に関して家庭との連携を図りながら児童の学習習慣を確立する。

がんばりカードの取組や自主学習への取組方の紹介、家庭学習の手引きなどの啓発により、少しずつではあるが、家庭での学習習慣が付いてきたようである。しかし、児童の取組の様子や家庭の温度差が見られた。様々な実態の家庭がある中、難しさはあるが、家庭との連携を図ることは、とても大切である。どのようにしたら、学習習慣をつけることができるのかは、学校だけでできることではないので、今後も、研究・啓発していく必要があると感じた。

4. 研究計画について

研究が計画的に無理なく進められたという意見が多数であった。しかし、研究授業参観の体制作りについては、課題が残った。来年度以降全校体制で参観する機会を設けるのであれば、配慮が必要である。

5. 研究組織について

授業研究部は、低・中・高学年3ブロックに分けたことで、昨年度の取り組み方や児童達の能力について深く理解でき、計画的に研究に励めたのでよいという意見が多かった。授業研究をする方の頻度の偏りや取り組む単元の選定や授業学年などを考えると選択肢が増えることなどから、2ブロックでも取り組みやすかったかもしれないという意見もあった。

また、学習環境部が思うように機能できなかったように思う。どのような目的と役割、手立てをもって取り組むのが良いのか考える必要があるように思った。との意見もあった。

どのようなテーマに取り組むにしても、組織をいかに作り、全員が所属感を持って研究を進めてけるかということが、検討事項である。

6. 研究の成果

多くの取組を通して、教師も児童も「書くこと」に対する意識が向上した。教師側では、目標設定を明確にすること、スモールステップで授業を行うこと、児童は、書き終えた後の自分の書いたものを見直し、より良いものにしていこうとする態度がについてきたこと。書いたものを発表したり友だちの発表を聞いたりする交流により、表現力の向上や書くことの上達にもつながったことに成果を感じることができた。また、日常的に取り組む学習活動が下支えとなり、児童の「書くこと」への抵抗感を減らし、意欲的に学ぶ姿につながった。また、教材研究・授業研究を通して、多くの考え方・指導法を教師側も学ぶことができ、スキルアップにつながった。

学習習慣の確立については、児童に自主学習の方法を示し、自主学習に取り組む児童が少しずつ増えてきたこと。また、家庭の協力を得られつつあることが成果であろう。

7. 研究の課題

書くことへの取組を通して、自由な発想で記述すること、校正・交流に課題が残っている。自分が書いた文章が認められ、個人差への対応の手立ての一つとなる交流の場の充実も児童の書く意欲の向上に欠かせない。また、ブロック間の連携・成果の交流、活用に多くの課題があった。「書くこと」において低学年ではここまで押さえたい、中学年では、高学年では、という系統性の確認ができればよかった。大きい組織であるので、ブロックの構成の工夫をしていく必要があると感じた。続けていくために、指導案や教材を取り出し活用できる方法を考えていくこと。という意見もあった。

このテーマでの研究は一段落するが、研究で得られた成果と課題を無理のない継続法で、日々の児童への指導・教師自身の指導力向上に生かして行ければと考える。

8. 来年度の研究の方向性について

職員アンケートより、来年度校内研究で取り組みたいことが、以下のように大まかにまとめることができる。3年計画の研究が終了するので、ある程度の方向性をつけて、来年度へ申し送りしたいと考えている。

- ・「書くこと」の研究を踏まえ、「書く力」を他教科、他領域に広げて研究していく。
- ・「読む力」特に、算数・文章題など、読み取り、筋道を立てる力をつける研究
- ・基本的な学力を高める研究
 - ex.理科（課題解決学習）、算数（見通しと振り返り）、学習規律等
- ・家庭学習の習慣化（家庭との連携）
- ・読解力・思考力

その後の校内研で全体で確認したこと

○実態調査をしたときに、算数の読み取り、筋道を立てる力をつけていくことが課題となっていたので、それを取り上げる。

○今年度までの研究をベースに書く力を他教科他領域に広げていく。

算数や理科、道徳

○家庭学習の習慣化（家庭との連携）は、校内研とは、別枠で取り組んでいったらどうか。

以上の3点が、方向性として、多く出されているので、次年度への申し送りとする。